

令和元年度林業成長産業化地域の事業報告会モデル事例報告 長野県伊那地域

市域の持続可能な林業・木材産業活動の推進に向けて

伊那市50年の森林(もり)ビジョンの実現を目指して

長野県伊那市

概要

- ◆面積: 66,793ha
- ◆人口: 68,020人
- ◆最高地点: 海拔3,052m (南アルプス塩見岳東峰山頂)



森林構成

- ◆森林面積: 約55,000ha
※森林率 約82%
- ◆森林面積の内訳
国有林: 21,707ha
民有林: 33,367ha
- ◆民有林の樹種割合
カラマツ: 14,514ha (44.1%)
アカマツ: 7,038ha (21.4%)



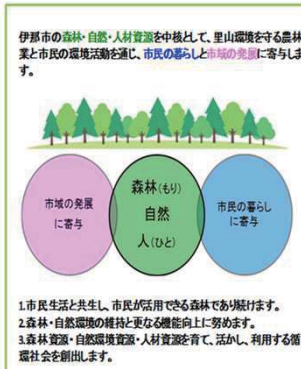
林業成長産業化で50年後の伊那市は

「山(森林)が富と雇用を支える50年後の伊那市」

○伊那市50年の森林(もり)ビジョンと林業成長産業化地域構想

現在の森林状況を把握し課題をより明確にして森林を健全で豊かに発展的に後世に引き継ぐため、「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」を平成28年2月に策定。
地域の森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化を図ることにより、地元利益を還元し地域の活性化に結びつける取り組みとして林業成長産業化地域構想の重点目標を設定。

ビジョンの理念と目標



取組による地域の活性化でビジョン目標の実現を図る

重点目標

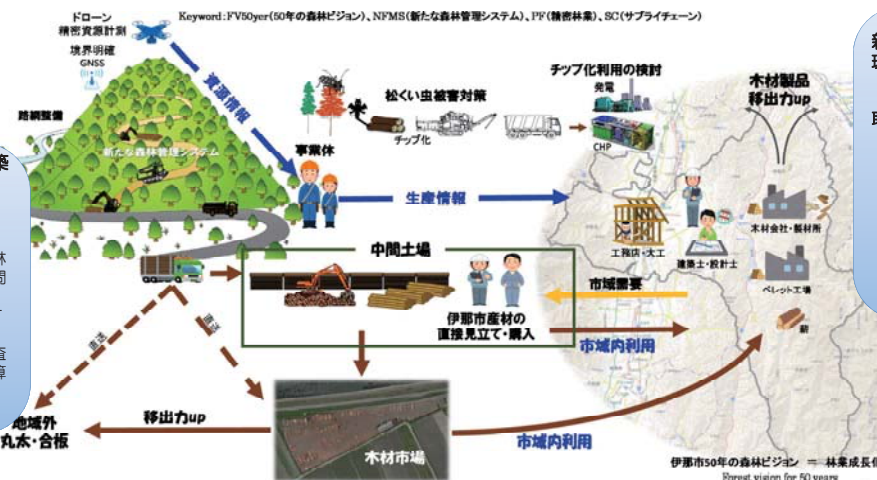
【新たな森林管理システムの構築】 地域検討会(仮称)の設立 ○地区検討会の実施、所有意向調査 ○採算性・計画の実効性等の評価 ○取組後の課題点・課題点等の洗い出し 集約化モデル団地の選定 ○営みとして活用する森林の集約化 ○信州大学等との連携による森林情報整備	地域検討会の設立・運営 レーザーセンシング技術活用 高精度GPS測量 所有意向調査、森林整備 委託契約締結による集約化
【森林資源の循環利用に向けた体制整備】 持続可能な林業経営に向けた基盤整備 ○森林管理の基本となる路網整備 ○生産→加工→流通コストの削減 ○森林資源の集約、経路最適化案作成 造林・流通コスト削減 ○産材選別と輸送コスト削減への中間土場の共有化 ○コスト削減に向けた造林・農作業の推進	林業専用道の開設 路網整備 ICT技術の活用 高性能林業機械の導入
【新たな木材需要の創出】 【A材】生産→加工→流通体制づくり ○ICT技術を活用した、生産と需要情報の活用 ○既存製品による新たな部材と構法の研究 ○川上から川下までの一気通貫型ネットワーク構築 【C・D材】木質バイオマスエネルギー利用拡大 ○地域内エコシステム構築 ○中間土場における林業等のテッピング ○森林資源を活用した超小型バイオマス発電導入 【B材】合板工場等への安定供給	地産地消型の持続可能なシステム構築 移動式チップパーの導入

ビジョンの推進に向けた取組

取組の拡大と周辺地域への波及拡大

○現況と取り組み

伊那市林業成長産業化地域創出モデル事業

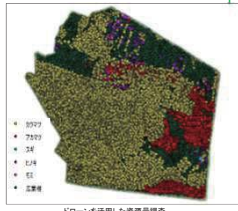


新たな森林管理システムの構築現況
森林所有者による森林管理が行われていない

取り組み
モデル団地を抽出し、新たな森林管理システムへの取組に向けた問題点や課題の洗い出し
・森林経営管理法第5条に相当する意向調査を実施
・ドローンを活用した資源量調査解析及び素材生産における採算性の評価を実施

新たな木材需要の創出現況
地域材の地域外への流出により木材の地産地消がなされていない

取り組み
「生産から加工・流通の体制整備づくり」と「木質バイオマスエネルギー利用拡大」の充実
・新たな木材需要の創出を目的とした木造建築から木材利用を考える研修会を実施
・公共施設への木質バイオマスエネルギー利用設備の導入



森林資源の循環利用に向けた体制整備現況

主伐期を迎えた人工林の主伐・再造林の停滞

取り組み
持続可能な林業経営に向けた基盤整備の構築
・モデル団地を核とした林業専用道の開設及び路網配置のシミュレーションの実施
・林業経営体への高性能林業機械導入補助を実施
・直接市域材を調達できる「中間土場」と木質バイオマス資源として活用するための「チップセンター」の配置シミュレーションの実施
・地域の川上〜川中〜川下関連事業者に対して「中間土場」の利用等の意向調査を実施